

はじめに

「管理職になるメリットって何ですか」

最近になって、このように尋ねられることが多くなりました。

理由を聞くと、「管理職になるかどうか考え始めているが、大変そうでデメリットしかないイメージがあり、なかなか踏み切れないでいる」と話してくれます。「管理職試験を受けてみないかと言われたが、迷っている」という人もいました。

詳しく聞いていくと、聞くと、それぞれにさまざまな思いを抱えていることが少しずつ見えてきます。

例えば、

「授業をしないので、モチベーションを保てる自信がない」

「人間関係の板挟みになって大変そう」

「責任が大きすぎる」

「管理職のやりがいとは何なのか」

「管理職にはどのような仕事があるのかわからず、不安」

など、抱えている思いや悩みは多様です。

「管理職の仕事の詳細はわからないけれど、見ていて大変そうだから、その道に進むのを迷ってしまう」という心境でしょうか。「管理職は罰ゲーム」という世論さえあります。

冒頭の質問に戻ります。私は、管理職への道を悩む人たちに、次のように伝えています。

「管理職になることの、誰もが納得できる明らかなメリットは、給与が上がることと離職後に再就職しやすくなる（と思う）こと。

管理職として直面するその他の多くのことは、捉え方によってメリットにもデメリットにもなる」

つまり、**管理職になることを「メリット・デメリット」という切り口だけで捉えないでほしい**ということです。

例えば、管理職になると、子どもたちと話す時間よりも、教職員や保護者などの大人と話す時間が多くなります。これは、大人と話すことが苦手な人にとっては苦痛と言えますが、それを楽しんでいる人にとっては充実した時間となります。また、苦手だと思っても、管理職という立場で話しているうちに楽しくなってくることもあります。あるいは、それまでは人と話すことが好きだったのに、苦手な相手と対話する機会が増えて、人と話すこと自体が嫌になってしまうというケースもあり得るでしょう。

大きな事案が起こったときも、「厄介事」とネガティブに捉えるとデメリットになりますし、「成長や変化のチャンス」とポジティブに捉えればメリットとなります。メリットとデメリットは表裏一体であることが多く、見方により変わっていくこともあるのです。そして、自分自身の体調や置かれた状況によっても捉え方が違ってきます。

自己紹介が遅れました。私は春野伸一と申します。現在、公立中学校の校長を務めています。30代で指導主事となり、学校現場に戻って教頭を務めた後、40代で校長になりました。学校心理士でもあります。

順調にキャリアを重ねてきたように見えるかもしれませんが、実際はそうではありません。私は管理職になってから、わずか3か月後にうつ病で1年半休職を経験しています。発症から10年近く経ちますが、今でもまだ本調子とは言い切れません。うつ病の一因は、

「管理職への道を勧められてその気になり、仕事内容や心構えについて、ほとんど考えずに管理職になったこと」でした。一言で言えば、まったくの準備不足です。一旦は教諭に戻ったものの、こうして再び管理職として働いてこられたのは、本当にまわりの支えがあったからこそだと思っています。

さて、多様な学校現場の在り方や働き方が認められつつある時世にあっても、管理職への道を考えている方に、私と同じような道は辿ってほしくありません。そこで、管理職になる前に「考えておけばよかったこと」「教えてほしかったこと」「気をつけてほしいこと」「アドバイスしてほしかったこと」をイメージしながら、本書の原稿を書き進めました。

管理職の道へ進むかどうかを考えると、大切なことは次の2つです。

①**管理職になることが、自分自身が生きていく上での「哲学」に、どうつながるのかを深掘りすること**

②**管理職の仕事について、深く「知る」こと**

①の「哲学」については、「幸せに生きていく術」くらいの意味合いで捉えてみてください。私が今、こうして書籍を書けるまでに回復したのも、これらについて、徹底的に考え抜いたからです。

本書は、この2つのことを中心に、「哲学」「知る」「迷い」「疑問」の4つのパートで構成されています。

Part1 哲学：自身の「哲学」と管理職への道とのつながりを深く掘る

Part2 知る：管理職の実際について徹底的に「知る」

Part3 迷い：情報を踏まえてしっかり「迷い」、決断する

Part4 疑問：管理職についての「疑問」に、本音で答える

どのパートにも、私の実際の経験や本音が詰まっています。大袈

娑だと言われるかもしれませんが、管理職の道に進むかどうかは、人生を左右する大きな選択です。そこには多くの困難が伴います。理不尽なことも多く、人によっては茨の道になることもあります。上辺だけの情報では、実際に管理職になってからつらい思いをする人が出てくるかもしれませんし、それは私の本意ではありません。

よくある質問についてもう1つ。

「私なんかが管理職になっても大丈夫ですか」

という声を聞くことがあります。

この質問には、次のように答えています。

「『役職が人を育てる』とか『立場が人をつくる』という言葉がある。これは本当にそう思う。『自分なんかが管理職をやっているのかな』と思うときも正直あるけれど、やっているうちに、その器になっていく。間違いなく、なっていく。いや、『なる』と心に決めてやっていくことが大切。身の丈に合う服に満足するより、少し大きめの服を着て、その服に合うように、自分の体を鍛え上げていけばいい」

私自身の人生哲学の1つに、「縁する人を幸せにする」というものがあります。この本を手にとってくださった皆様に、私の思いが届けば幸いです。

最終的に管理職の道へ進むかどうかにかかわらず、どの道であっても、ご自身の選択が人生の幸福へとつながるものとなりますよう、心より願っております。

春野 伸一